

1

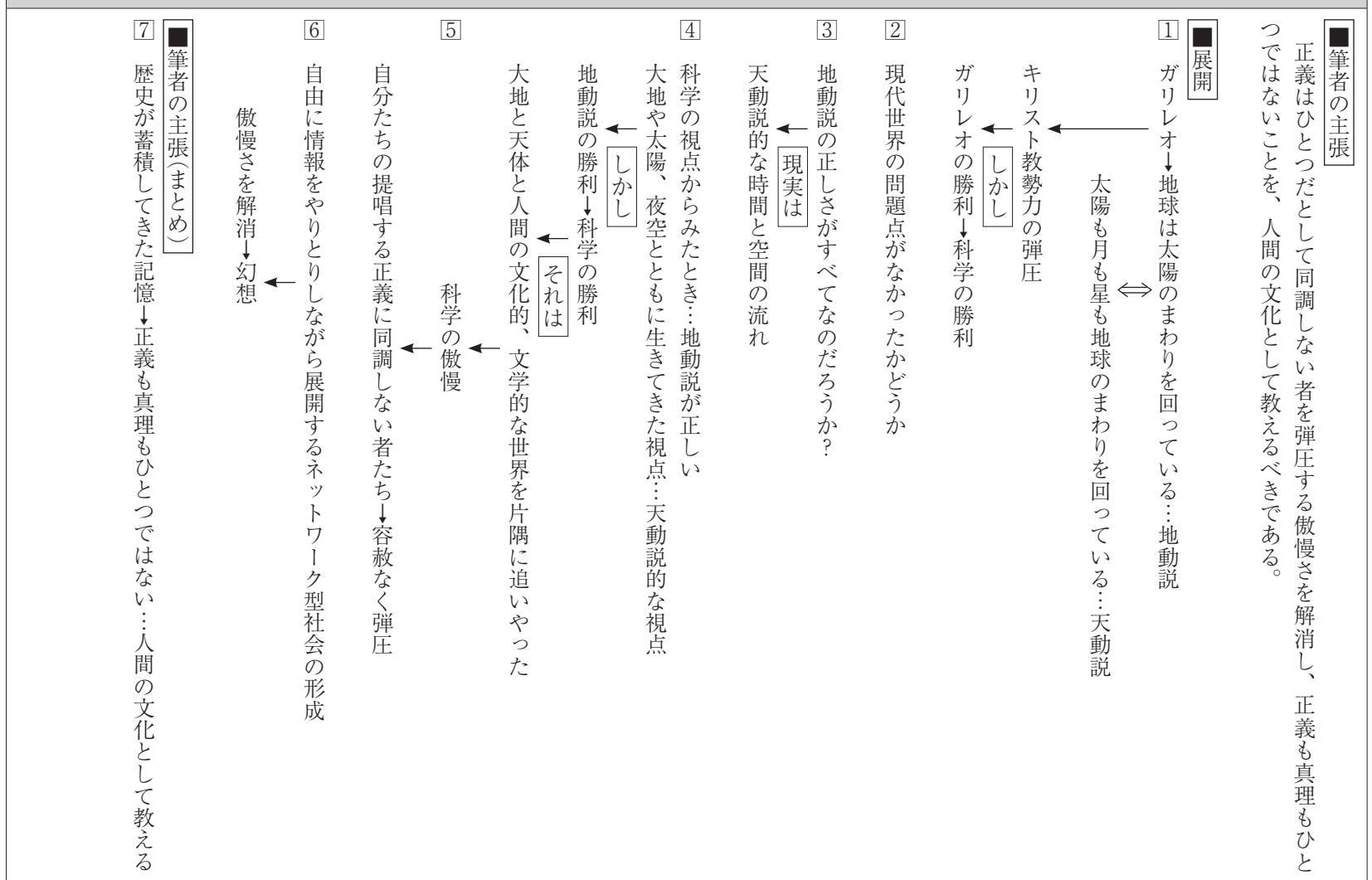
説明的文章(1)

◆指導ページ P.2～5◆

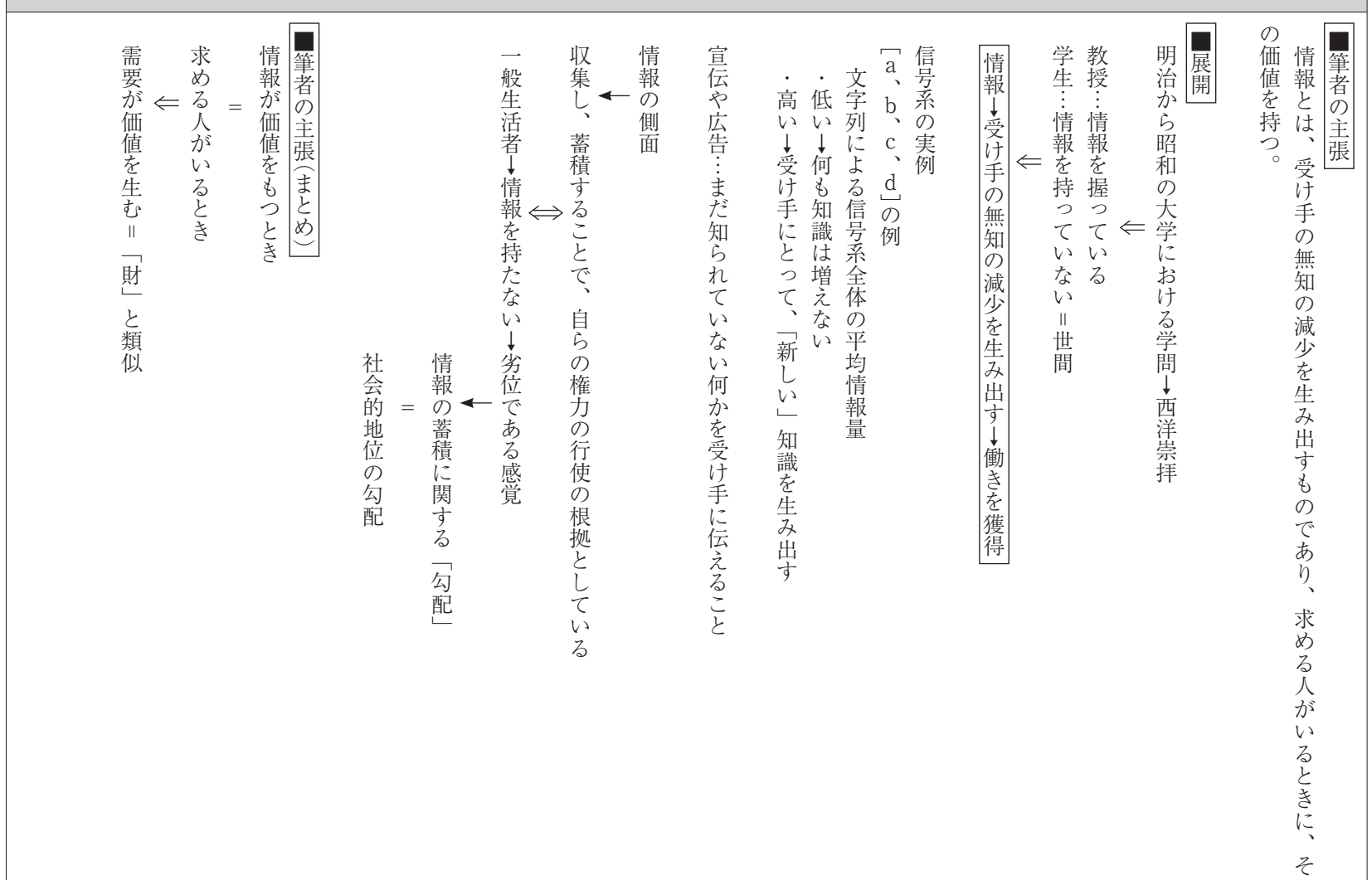
【指導のポイント】

一般的に、説明的文章では既知の事例をもとに筆者の主張が展開されていく。その際、接続語と指示語は事例と主張をつなぎ合わせて文章にする役割を果たす。文章読解をするために、要約指示語の内容を読み取ること、接続後の役割を理解することを目指す。また、段落構成に注目し、論点を読み取ることを目指す。

例題の板書例



演習問題の板書例



説明的文章(2)

◆指導ページ P.6～9◆

【指導のポイント】

説明的文章は、文章が「事実・例示」、「考察」、「結論」などから構成されているので、筆者は段落ごとにそれを構成し、論旨を展開している。接続詞や内容をもとに、各段落の関係を理解することは、筆者の主張を理解する正攻法である。ここでは、文章を構成する段落の持つ役割を考えながら、文章を理解することを目標にする。

例題の板書例

■筆者の主張
本を読むとき、速く読んだり、索引を手がかりにして読むのではなく、一冊の本をじっくり確実に読む方がよい。

■展開

- 1 「速読術」や「速く読む法」↓若い人や子供にとってよくない
- 2 本を読む習慣をつけなかった大人
- 3 何かの理由で読まなければならないときに読む大人になるまであまり本を読まなかった大人
- 4 ゆっくり確実に読む方がいい
〈女性ニュースキャスターの例〉
毎週、大きな本を5冊も6冊も読んでレポートを書く
← そのためにこそ
- 5 「速読術」や「速く読む法」が必要
〈ニュージャージーの大学での例〉
- 6 学生に読ませる量があきらかに多かった
- 7 題材にする本↓初めから終わりまで読んでいる学生がいなかった
- 8 索引をみて、討論になりそうなどころだけを読む
ダンテの「神曲」の研究所について、面白いと思う点と疑問点を話した
← しかし
- 9 教授しか相手になつてくれなかった
社会に出て仕事をしている大人
- 10 役に立つものだけを抜き取るために読む、ということはあるだろうか

■筆者の主張(まとめ)
自分がまるごと本の中に取り込まれる
← 必要なことを取り出すだけのものではない

演習問題の板書例

■筆者の主張
これから何を学ぶのか知らないまま習い始め、事後的に意味が考慮されていくことが学びである。

■展開

学び↓時間的な現象⇨母語の習得

最も原型的な学び

子ども：話しかけられてくる言葉↓母語の学習
← 始めたとき

これから何を学ぶかということを知らなかった
← 「言語」や「学習」、「価値」、「意味」、「有用性」といった概念を知らない
← これこそが
← 学びを動機づけている

学び始めているとき↓何のために習っているか言えない

理由

子ども：学習の主権的で自由な主体ではないから
← それは

自らの意思で、自己決定によって進むわけではない

〈ゲームの例〉
気がついたらすでにゲームが始まっている
← そして
← そこにプレイヤーとして投げ込まれている状況
← プレイしていくうちに、だんだんどうすればいいかが分かる
← それこそが
← 学び

■筆者の主張(まとめ)
学び：学んでいる途中と、学び終わったときとは主体そのものが別人
← 学びのプロセスに身を投じた主体の運命

小説文

◆指導ページ P.10～13◆

【指導のポイント】
 小説文では、人物の感じたこと考えたことを読み込んでいく必要がある。設問として問われる場面とそれに至る背景、あらすじを整理する。それをもとに場面の情景が登場人物にどのように映るかを捉えながら心情を読んでいくことを目標にする。人物の描写の変化から、心情の変化を捉えることを重点的に行う。

例題の板書例

■場面

吾郎が生活費をもらうために、父に会いに行く。

■情景

父に会いに行く 吾郎 早く着きたい

家に着く 吾郎 早く帰りたい

← 時間が早く経つことだけを念じる↑奇妙

吾郎 父の話が一段落つくと、立ち上がる様子を見せる

← 父 空洞のような目…不安・安心

わざとゆっくり靴ヒモを結ぶ

(父から封筒を受け取るため)

← さり気なく「忘れるとこだった」…父の感情

← 父から封筒を受け取る

(ひと月分の生活費が入っている)

← 吾郎 軽く手を挙げて、駆け出す…堪らない

重要語句

- 大仰に 大げさに。誇大に。
- 堪らなくなつて 我慢などできなくなつて
- 愚鈍 判断力・理解力がにぶいこと。頭が悪くのろまなこと。

演習問題の板書例

■場面

元競輪選手の弟子になる許可をもらおうと、凜が両親を説得している。

■情景

◇娘の凜の願いに対する両親

・母親：娘が将来を考えず、思いつきだけで行動するのは無謀だと反対

・父親：娘の気持ち確かめようとしている

← ◇凜の反応：やりたいことに対して理解してくれない母親に反発して大声をあげるが、

両親にどうしても分かってもらおうと、深く頭を下げる。

◇凜の心情：バレー部を退部してからの泥沼から抜け出すためには、自転車しかない。

← 自転車の乗れば、自由に動き回れるはずだ。

← 〈壁の時計の音を刻む音〉：気づまりな沈黙を表す情景

◇父親の答え：「わかった」「お前がしたいようにしなさい」

・哀しげで優しい目

↓ 娘の苦勞を予感、思いやる優しさ

「自分に羞じることだけはしないほしい。…どこにいこうと、何をしようかと、私たちが娘だ。そのことを忘れないでくれ。」

↓ 娘がどんなときでも、父母は娘の味方である

← はい、と凜はうなずく。

← 両親だけになつて、長い話し合いが続く

↓ 母親は、なかなか納得できない様子

重要語句

- 呆然 気ぬけがして、ぼんやりとしたさま。
- 一瞥 ちよつとみること。ちらつと見ること。
- 確信 かくかく信じていること。信じて疑わないこと。

随筆文

◆指導ページ P.14～17◆

【指導のポイント】
 随筆は、筆者の心情や考えなどがよく表れた文章である。文学的随筆、論理的随筆など種類があるため、それぞれの特徴について説明する。随筆の読み方は、話題、テーマをおさえ、筆者の心情や考え方を読み取る。筆者の考えや心情を述べている部分に着目することで、筆者が感動した内容から主題を捉える。論説の結論のように主題が一つの段落にまとめられているとは限らないので注意する。

例題の板書例

■テーマ
 独楽回し(喧嘩独楽)について

■展開

正月：原っぱで独楽回し(喧嘩独楽)

お年玉を握り締めて、独楽を作っている店へ行った

怖ず怖ずと少し値切ってもらえないか、おかみさんに交渉

希望の品が切れているときは、特注して何日も待つ

真新しい独楽をわざと汚したり、疵をつけて貫禄をもたせたりする

独楽回しの紐↓家々の様々な端切れで作られる

最初だけじゃんけんで順番を決める

最後はまだ回っているもの同士で、はたき合う

最後まで残っていたもの↓天下

独楽回し(喧嘩独楽)：興奮・失望

※冬の原っぱ：悲喜こもごもの初心の感情

重要語句

○畏怖⇨大いにおそれること。おそれかしこまること。

○堅牢⇨かたくてじょうぶなこと(さま)。

演習問題の板書例

■テーマ
 韓国の旅での触れ合いについて

■展開

韓国・陽が西に傾き始めた頃

光州へ乗り継ぎがあるのに、終点は古いホテルの前だった

ホテルのフロントへ行こうとしたが、入り口が見つからない⇨困った

韓国訛りの日本語を話す青年が声をかけてきた

光州まではバスターミナルに行く必要があつて、そこまではタクシーでも基本料金程で行ける

青年⇨数列前に座っていた人で、六十過ぎくらいの母親らしき人といった

日本に留学していて、帰国したばかり

タクシーを呼び止め、行き先を告げ、積み込みまで手伝ってくれた

母親が息子を誇らしそうに見ていた

作者⇨親切にもらった礼を告げた

青年⇨日本で同じようにもらった

こういうものだ

⇨どこでどう巡ってくるか分からない、人とのつながりが面白くもあり、怖ろしくもある

【指導のポイント】

古文はいくつかの古典作品に触れ、あらすじ、登場人物をおさえて本文を理解することを目標とする。古文は主語が省略されていることが多いので、主題を補いながら考え、導入部や結論部に注目して、要旨をつかむようにする。また、漢文は返り点などの基本事項が理解できるようにする。

例題の板書例

1
■本文
現代仮名遣い

よろづ→よろず
言ひしに→言いしに
あはれ→あわれ

現代語訳

よろづ→すべて
あはれ→趣がある
さらなり→言うまでもない
めでたひ→すばらしい

表現技法

「こそ」→係り結びの法則
「何かはあはれならざらん」→反語

■内容

すべてのこと：月を見れば、心が慰められる
霜のほう←が月より趣があると言い争ったことが興味深い
風←は人に情緒を与える

徒然草

鎌倉時代に兼好法師(吉田兼好)が書いた随筆集。日常の中で見聞きしたものの感想や考え方が書かれ、著者の観察眼の鋭さがあらわれた作品であり、作品全体に無常観にもとづく著者の人生観や美意識などがうかがえる。

演習問題の板書例

1
■本文
現代仮名遣い

かへすがへす→かえすがえす
むかひたる→むかいたる
かはる→かわる

現代語訳

いみじく→とても
かへすがへす→本当に

■内容

することがないとき→昔知り合いだった人からの手紙を見つけたとき
うれしい気持ちになる

亡くなった人の手紙

ともしんみりして、たった今書いたもののように見える

本当に素晴らしい

人との交わり⇌顔を合わせている間の気持ちの通じ合い

しかし

手紙での心の通じ合い

昔のままでも少しも変わらない

中国やインドなどの知らない出来事

文字がなければ、伝えることができなかった

文字で書かれたもの、手紙ほど素晴らしいものはない

【指導のポイント】

詩、短歌、俳句の形式や特色を理解し、表現技法の特徴を捉える。また、基本事項を理解し、それらが表現技法にもたらす効果を読み取ることができるようにする。

例題の板書例

■筆形式・表現技法

短歌：五・七・五・七・七

→ 字数が多いもの：字余り

→ 字数が少ないもの：字足らず

擬人法：人でないものを人にたとえている

季語：季節感を表すために詠み込む

← 現代と異なることがある

■内容

A 父の子に対する思い 三句切れ・字余り

B 現実社会の苦しみに対する思い 四句切れ・字余り

C 子の父に対する思い

D 父の子に対する思い 字余り

E 季節への変化 擬人法 季節：春

F 子を微笑ましく見ている 季節：夏

G 秋の朝の風景 季節：秋

H 自分の子に対する思い 季節：冬

演習問題の板書例

■筆形式・表現技法

瀧の上に水現れて落ちにけり

← 季節：夏

← 感動を表現

■内容

滝をじっと見ている

← 落ちようとして流れてくる水が、滝の上にかたまりになって、極まったところで落ちてくる

← 目であらえている

← 俳句は理屈ではない

瀧をひたすら見て表現した

← 作者独特の表現

← 目で見えて事物をありのまま作ること

← 写生

← ただ目に写ったさまをカメラで写す

← 解釈：様々な議論をよんだ

← 目で見えて作ること

← 理屈で考えず、物の本質を感じた通りに表現すべき

【指導のポイント】

与えられた資料から情報や事実を読み取れるようにする。ここでは、資料から読み取れることを明らかにしたり、会話における各人の発言内容を読み取ることによって情報を整理したりする。また、表と文章が混在したものに対しても、混乱することなく事実を正確に読み取ることができるようにする。

例題の板書例

■ テーマ
食料の自給率について

■ スピーチ原稿

◇ 田中さんの疑問

① 日本の食料自給率は、他の先進国に比べて、どれくらい低いのか？

② 自給率はどのように変化しているか？

◇ 調べて分かったこと

・ 資料1

↓ 日本の穀類、肉類、牛乳・乳製品の自給率は、他の先進国に比べて最も低い。野菜や卵類の自給率は、他国も高い自給率なので、他国と比べて高いとはいきれない。

・ 資料2

↓ 日本の食料自給率は、一般的に年々低くなっている。米以外の穀類の輸入が多いため、穀類の自給率も低い。食事が洋食へと変化するとその傾向は進むかもしれない。

← 日本は世界でも農産物輸入量が非常に大きい国だといえる。

◇ 結論：日本は、今後、食料自給率を上げるべき状況にあり、農地を集約・大規模

化して、競争力のある農業をめざし、食料の自給率を上げようとしている。

意見：この先、食料の自給率を上げるために私たちには何ができるかを考えていきたい。

演習問題の板書例

■ ポスター

川沿いの土手の清掃について

■ 話し合い

◇ 【話し合い】の目的：今年の清掃のポスター制作を完成させること

【話し合い】の主な内容：【ポスターの下書き】をもとに、原稿を修正すること。

※修正点について

↓ 【話し合い】の内容と修正原稿との関連

・ 「集合場所・集合時間」

伊藤さん 「いつ、どこに集合すればよいかわからない」

鈴木さん 「土手わきのグラウンドに1時に集合」

・ 「服装」や「持ち物」

伊藤さん 「二、三年生は経験しているが、一年生にはわからない」

鈴木さん 「運動着で集合」

・ 「雨天時」

木村さん 「当日、雨が降った場合についてもポスターに書いた方がよい」

今井さん 「当日の朝に校内放送で連絡する」

・ 「ゴミの分別方法」

鈴木さん 「ゴミの分別を全員に知ってもらうために方法を書くべき」

伊藤さん 「『その他』にゴミ袋を配布するときに説明すると書いてあるので不要」

木村さん 「ポスターに書いておけば誤解がなく、当日もスムーズに分別できる」

・ 【話し合い】にあった提案で、修正された原稿に書き加えられていないこと

木村さん 「各教室にある火ばさみを、クラスの代表者を持ってきてもらうことを書く」

【指導のポイント】

国語表現全般的な事項として、文章表現について整理する。文の単位で理解し、正しい文、伝えたい意図が明確に表現できるよう学ぶ。文章の構成について理解し、明瞭な文章を書けるようにする。また、文法事項については、品詞の種類や意味などを正確に理解できるようにする。

演習問題の板書例

<p>5</p> <p>(1) なつかしい思いを抱かせました↓抱きました</p>	<p>4</p> <p>(1) 呼び止められる↓受け身 ア まもなく来られる↓尊敬 イ 案じられる↓自発 ウ 受けられる↓可能 エ 道をたずねられる↓受け身 (3) 本が読みたい↓希望の助動詞 ア いつも眠たい↓形容詞の一部 イ カレーを食べたい↓希望の助動詞 ウ 今日ほめてたい日だ↓形容詞の一部 エ とても重たい↓形容詞の一部</p>	<p>3</p> <p>(1) この本↓連体詞 (2) 決して忘れない↓副詞 (3) 雪が降り、また風も吹いた↓接続詞</p>	<p>2</p> <p>柔らかい布 ↓形容詞・連体形 小さくなる ↓形容詞・連用形 柔らかな布 ↓形容動詞・連体形 元気な人 ↓形容動詞・連体形</p>	<p>1</p> <p>(1) 計算をするときの注意点 ← サ変 (2) 来ない人を待つ気持ち ← カ変</p>
--	--	---	---	---

演習問題の板書例

<p>9</p> <p>(1) 都会に住む↓場所を表す格助詞 ア 氷になる↓結果 イ 校庭に誰がいる↓場所を表す格助詞 ウ 遊びに行く↓目的 エ 寒さにふるえる↓理由</p>	<p>8</p> <p>(1) おごそかに卒業式が行われた ← 形容動詞・連用 (2) 少女が美しい声で歌う ← 形容詞・連体</p> <p>形容詞：言い切りが「い」 形容動詞：言い切りが「だ」、連体形で「な」</p>	<p>7</p> <p>① 夕方になると↓五段・終止 ② 何か着ないと↓上一段・未然 ③ もう少しすれば↓サ変・仮定</p>	<p>6</p> <p>(1) 大きな人だ↓連体詞 (2) 大きい人だ↓形容詞 (3) 変な話だ↓形容動詞 (4) おかしな話だ↓連体詞 (5) とても愉快だ↓形容動詞 (6) 愉快な話だ↓助動詞 (7) 話がある↓動詞</p>
---	---	--	--